

昔と今の違い～変わりゆく農業の形～

話し手 福嶋 嵩

聞き手 松本 和樹 松山高校映像制作部 2年

穂積 隼斗 松山高校映像制作部 1年

0. 自己紹介

名前は福嶋 嵩。生まれ育ったのは埼玉県小川町下里地区です。

下里は、有機農業が盛んで金子 美登さんの霜里農場が有名だね、ここはブランドにもなっているんだよ。

1. 昔の仕事

昔やってた仕事は蚕だよ。1年に春、夏、秋の3回繭をとる。桑の木を餌にして育てる。桑の木は剪定（手入れ）をする必要があるんだよ。それを市場に持ってったぐらいだね。春が一番取れて50貫（約200kg）ぐらいね。夏と秋は春の半分ぐらいだから、1年で100貫（約400kg）取れる。あとは、自家用の米と麦をとってたぐらい。馬に犁を引かせたり、雑草を抜いたり、機械がないからほとんど手でやってたんだ。だから1年中何か仕事してたんだよ。それに、作物によって時期が違うから、できるだけ組み合わせでやってたんだよ。収穫の時期には、みんな興味を持つように豊年万作ちゅう歌舞伎をくずした感じの踊りをして歩いてたね。あと、冬場に山仕事をしてた。ノコギリを使って杉の木を切ったり、落葉樹を切って炭焼きにしたり、薪を売ったりしてたね。石の採掘はごく少数の人だったね。



↑ 犁 図：長野県上田市塩川町 2874-1 松山記念館 HP 引用

※引用のため下里で使われているものとは異なる場合があります。

2. 現在の仕事

今は桑の木がないから蚕はやってないんだよ。今は畑や田んぼをやっているけど、ほとんど機械になってきたから家中でしている仕事はほとんどないよね。米は安心して食べられるように完全無農薬。稲は自分で育つ力を持っているので、よっぽどの病気じゃなければ虫に食われることも大丈夫。過保護にしないことだね。この地区の米は無農薬ってことでブランドにもなっているんだよ。肥料も農協とかで売ってるものは使っていないんだ。

畑ではネギ、トマト、キュウリ、ジャガイモをつくっているね。どれも自家消費だから、産業として成り立つものはない。雑草が生えてくるので少しずつ場所を変えて作ってる。最近では杉ヤヒノキが増えて生活圏が狭くなったからだろうね、夜にシカやイノシシが出て、畑を荒らされるんだよ。鉄製のワイヤーをひっかける足くり農程度の対策しかとっていないんだよ。

Profile

福嶋 嵩 ふくしま たかし 昭和5年2月27日生・84歳・農業

畑や田んぼをやっているけど、全部自家消費だから産業として成り立っているものはないね。子供のときは竹を使った兵隊ごっこをしたり、今は禁止になっているけど川に行くと水遊びをしていた。戦時中には暴れみこしてのがあってね日を決めてやってたね。

取材を終えての感想

私は、この取材を通じ、2つのことを感じました。

1つ目は下里地区の良さです。私が感じたこの地区の良さは、なんとも自然です。私の地元ではこんなに川が綺麗で辺りは田畑や山があるような環境にないのでこういった環境に新鮮味を感じました。また、農業が盛んで下里地区で作られる米がブランドになっていること、霜里農場という、全国で有名な農場があるということには驚きでした。2つ目は、今との違いです。私は祖父の畑仕事の手伝いをするのですが、土を耕したり、手入れをしたりと小規模ながらとても苦労しています。しかし、今回お話を聞いて改めて昔の畑仕事や田んぼの大変さを感じ、機械が使える便利さを感じました。

以上のことより私はこの取材を通じて新たなことを知ることができ、良い経験になりました。